

案内表示

■案内表示の現状の問題点 1

案内情報の有無	1階建物の外の表示板に入口の記載が無い
	建物内の場所を把握出来るものが無い（エレベーター、受付、大ホール、中ホールなど）
	ホールの建物の位置を把握するものが無い（案内板の情報不足）
	案内図がわかりにくい
	表示がわかりにくい
	文化ホールの案内図に入口が書かれていなかった
	ホールの案内図の表示がわかりにくい
	館内案内板見えづらい。トイレ・エレベーター把握したい
	2階席に行きたい時の案内が無い
	4階：トイレ表きに車椅子のマークなし
	トイレの案内が途中にないと迷子
	目印になるバナー（看板）あるといい
	今日、何をイベントとして開催しているかわからない
	入口の目印になるオブジェを置いたらどうか。
	入口から柱に案内掲示
	入口に案内のポスターが貼ってあるとわかりやすく間違えない
	案内がたくさんある場所から突然情報が減ってしまうとより迷いやすくなる
	階段からホールを目指すと案内板があってわかりやすい
	2階は表示が多くて良い
	エレベーターから2階に上がると一気に案内が増える
建物内の案内板のエレベーター表示や文字がわかりづらい	
ロビーの案内表示が少ない。座席表も見えづらい。見落としがち	
壁の座席案内図に車椅子席の表示がない	



<短期的な解決の方向性>

- 現在の案内図や案内表示に関して情報が不足していないか、間違っていないか点検を行う
- 不足している情報があれば簡易的（イベント時のみ）な情報提示を行う
- 情報を掲示する際はユーザの移動行動導線を考えながら掲示をすること

<中長期的な解決の方向性>

- 今後の案内図や案内表示の設置を検討・計画する

案内表示

■案内表示の現状の問題点 2

案内表示のサイズ	演劇ホールトイレ・座席ご案内のマークが小さい。入口から遠く見づらい 座席案内をもっと大きくした方がいい、現状のタイプは小さすぎる 案内板の文字の大きさが小さく見えにくい。
----------	---

■案内表示の現状の問題点 3

案内表示の高さ	案内板の表示の高さ 車椅子。低い目線で案内板がない ピクトサインの設置の高さ 視点の低さを考えたガイドが無い 看板が反射で見にくくなる。視点が低いため 視線の高さに表示があるのは良い 館内案内が高くて反射したりして見えにくい 目線の高さに案内表示を設置する（トイレ・スロープ等）
---------	--

■案内表示の現状の問題点 4

コントラスト	表示のコントラストが分かりにくい 色使いの工夫で改善して欲しい（点字ブロック・案内表示） ホールの中での館内マップが色が薄くて分かりにくい 色が薄いと見えにく。トイレは黒文字白文字が見えやすい 文字のコントラストが無い 点字ブロック・案内板の表示のコントラスト 文字をはっきり、色合い パステル調は見えない 弱視の人には表示板が見えにくい。黒バックに白文字 総合案内板の文字が見えない（点字は目立つ）ホールが白文字 白文字見にくい。
--------	--

■案内表示の現状の問題点 5

案内表示の位置	休館日の情報などは入口前ではなく、もっと手前でわかるといい 案内表示がガラス越しにあるとガラスが反射して何が書いてあるかわからない 点字が光って見える 演劇ホールの入口の表示が光って見えにくい。 表示が見えにくい。斜めで光が入る 館内案内図が高いとライトが映り光って見えない
---------	--



案内表示における問題はサイズ・位置・高さ・コントラスト複数の問題が重複して起こっているケースが多い

案内表示

<短期的な解決の方向性>

- 現状の状態を把握する
- 変更が可能な案内表示に関しては可能な限り変更対応を行う
- 直ぐに取り外しが出来ない・変更出来ない案内表示については補足的に案内表示を別途追加するなど、利用ユーザーの実態に即した状態で案内表示を設置する

<中長期的な解決の方向性>

- 今後の改修等を検討する
- 改修の際には多様なユーザーの利用実態に沿った形でサイズ・位置・高さ・コントラスト等に注意しながら設置検討する

■案内表示の現状の問題点 6

ピクトサイン	文字だけでなくわかりやすいピクトサインで誘導して欲しい（施設内、施設間）案内図のアイコン
--------	--



<短期的な解決の方向性>

- 文字情報だけでは理解できないユーザもいるため、ピクトサインを併用して活用
- ピクトサインを活用する際は統一的なサインを使用する

■案内表示の現状の問題点 7

案内表示のメンテナンス	劣化が目立つ。案内板。座席表 館内案内図の点字が消えていて使えない。現在地がわかりづらい
-------------	---



<短期的な解決の方向性>

- 現状の状態を点検する（劣化のため情報が欠けていないか、情報が最新の状況になっているのか）
- 簡易的に修復できる箇所は正確な情報を修復する
- 情報が直ぐに修復出来ない場合は、別途情報を案内を設けるかHP等で事前に情報を発信する

<中長期的な解決の方向性>

- 今後の改修等を検討する

■案内表示の現状の問題点 8

点字案内板について	点字を読めない人が多い 点字板わかりづらい 点字の案内不十分
-----------	--------------------------------------



<短期的な解決の方向性>

- 視覚障害への情報保証 = 点字では無い。視覚障害の中には点字に不慣れな人、読めない人も多くいるということを知識として周知する必要がある。（現在の点字利用率は10%以下と言われている）
- 点字以外の情報の発信（音声やHP等での情報発信）

<中長期的な解決の方向性>

- 点字を積極的に活用しているユーザーもいるためユーザの必要な情報が入った点字板の設置や触地図による情報発信を行う必要がある

案内表示

参考情報

【サインの種別】

サインは、誘導・位置・案内・規制の4種のサイン類を動線に沿って適所に配置して、移動する利用者への情報提供を行う。

- ・ 誘導サイン類:施設等の方向を指示するのに必要なサイン
- ・ 位置サイン類:施設等の位置を告知するのに必要なサイン
- ・ 案内サイン類:乗降条件や位置関係等を案内するのに必要なサイン
- ・ 規制サイン類:利用者の行動を規制するのに必要なサイン

【表示方法】

- 書体は、視認性の優れた角ゴシック体とすることが望ましい。
- 文字の大きさは、視力の低下した高齢者等に配慮して視距離に応じた大きさを選択する。
- 弱視者に配慮して、大きな文字を用いたサインを視点の高さに掲出することが望ましい。高齢者に多い白内障に配慮して、青と黒、黄と白の色彩組み合わせは用いない。
- サインの図色と地色の明度差、彩度差を大きくすること等により容易に識別できるものとする。
- 色覚障害者に配慮し、見分けやすい色の組み合わせを用いて、表示要素毎の明度差・彩度差を確保した表示とする。

(留意すべき色の選択例)

濃い赤を用いず朱色やオレンジに近い赤を用いる。赤を用いる場合は他の色との境目に細い白線を入れると表示が目立ちやすくなる。

(見分けにくい色の組み合わせ例)

「赤と黒」、「赤と緑」、「緑と茶色」、「黄緑と黄色」、「紫と青」、「赤と茶色」、「水色とピンク」の見分けが困難・明度や彩度の差には敏感であり、同系色の明暗の識別に支障は少ない

- サインは、必要な輝度が得られる器具とすることが望ましい。さらに、近くから視認するサインは、まぶしさを感じにくい器具とすることが望ましい。
- ピクトグラムは、JIS Z8210 に示された図記号を用いる。また、その他、一般案内用図記号検討委員会が策定した標準案内用図記号を活用する。
- 外光、照明の逆光や光の反射により、見にくくならないよう配慮することが望ましい。また、サインの背景に照明や看板等が位置すること等により、見にくくならないように配慮することが望ましい。

【誘導サイン・位置サイン】

(表示する 情報内容)

- ・ 誘導サイン類に表示する情報内容が多い場合、経路を構成する 主要な空間部位と、移動等円滑化のための主要な設備を優先的に表示する。
- ・ 移動距離が長い場合、目的地までの距離を併記することが望ましい。
- ・ 位置サイン類に表示する情報内容が多い場合、前述の設備のほか経路を構成する主要な空間部位を優先的に表示する。

案内表示

(表示面と器具のデザイン)

- ・ 誘導サイン類及び位置サイン類はシンプルなデザインとし、サイン種類ごとに統一的なデザインとすることが望ましい。

(表示面の向きと掲出高さ)

誘導サイン類及び位置サイン類の表示面は、動線と対面する向きに掲出する。

- ・ 誘導サイン類及び位置サイン類の掲出高さは、視認位置からの見上げ角度が小さく、かつ視点の低い車いす使用者でも混雑時に前方の歩行者に遮られにくい高さとする。
- ・ 誘導サイン類及び位置サイン類の掲出にあたっては、照明の映り込みがないように配慮する。また、外光、照明の配置により見にくくならないよう配慮する。
- ・ 動線と対面する向きのサイン2台を間近に掲出する場合、手前のサインで奥のサインを遮らないように、2台を十分離して設置することが望ましい。

(配置位置と配置間隔)

- ・ 経路を明示する主要な誘導サインは、出入口と乗降場間の随所に掲出するサインシステム全体のなかで、必要な情報が連続的に得られるように配置する。
- ・ 個別の誘導サインは、出入口と乗降場間の動線の分岐点、階段の上り口、階段の下り口及び動線の曲がり角に配置する。
- ・ 長い通路等では、動線に分岐がない場合であっても、誘導サインは繰り返し配置することが望ましい。
- ・ 個別の位置サインは、位置を告知しようとする施設の間近に配置する。

【案内サイン】

(表示する情報内容)

案内図に表示する情報内容は、移動等円滑化のための主要な設備のほか必要なものとする。

- ・ 案内図には移動等円滑化された経路を明示する。
- ・ ネットワーク運行・運航のある交通機関においては、改札口等に路線網図を表示することが望ましい。

(表示面と器具のデザイン)

- ・ 案内サイン類はシンプルなデザインとし、サイン種類ごとに統一的なデザインとすることが望ましい。
- ・ 構内案内図や、表示範囲が徒歩圏程度の旅客施設周辺案内図の図の向きは、掲出する空間上の左右方向と、図上の左右方向を合わせて表示することが望ましい。

(表示面の向きと掲出高さ)

- ・ 案内サイン類の表示面は、利用者の円滑な移動を妨げないよう配慮しつつ、動線と対面する向きに掲出することが望ましい。
- ・ 空間上の制約から動線と平行な向きに掲出する場合は、延長方向から視認できる箇所に、その位置に案内サイン類があることを示す位置サインを掲出することが望ましい。
- ・ 案内サインの掲出にあたっては、照明の映り込みがないように配慮する。また、外光、照明の配置により見にくくならないよう配慮する。

案内表示

(配置位置と配置間隔)

- 案内図は、出入口付近や改札口付近からそれぞれ視認できる、利用者の円滑な移動を妨げない位置に配置する。
- バリアフリー化された経路上ではない各出入口において、エレベーターが設置されている出入口までを示す位置案内図等を設置し、バリアフリー化された経路への誘導経路を示すことが望ましい。

(角ゴシック体の書体例)

日本字及びアルファベットの角ゴシック体には、次の例などがある(カッコ内は書体名)。

出口案内

(新ゴ B)

出口案内

(新ゴ M)

出口案内

(新ゴ R)

出口案内

(タイプバンクB)

出口案内

(タイプバンクDB)

出口案内

(ナウGB)

Express

(ヘルベチカ・ボールド)

Express

(ヘルベチカ・ミディアム)

Express

(ヘルベチカ・レギュラー)

Express

(ユニバース65・ボールド)

Express

(アクチデンツ グロテスク・ミディアム)

Express

(アクチデンツ グロテスク・レギュラー)

Express

(フルティガー・ボールド)

Express

(ローティスサンセリフ・エクストラボールド)

Express

(ローティスサンセリフ・ボールド)

(文字の大きさの選択の目安)

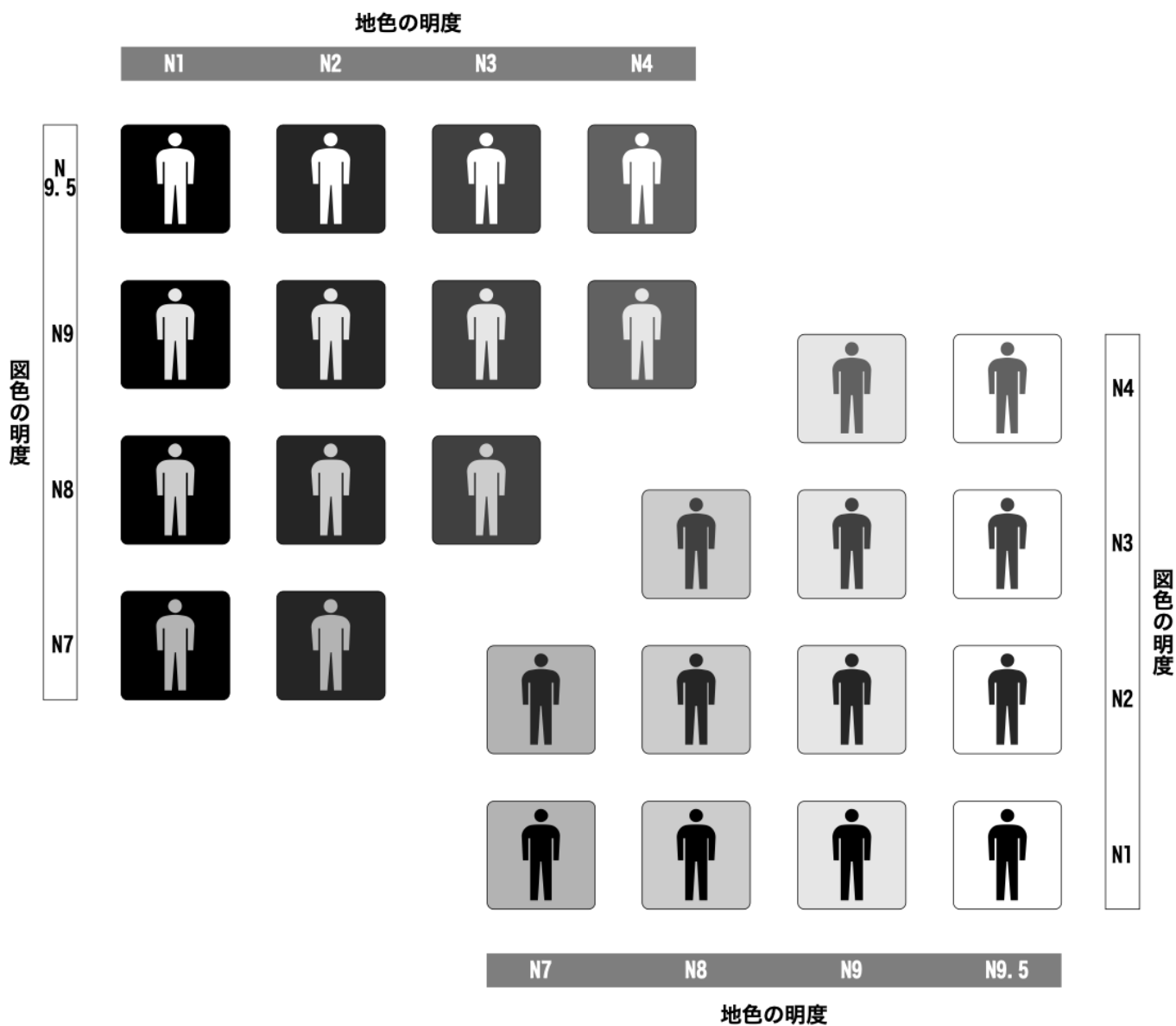
- 遠くから視認する吊下型等の誘導サインや位置サインなどは20m以上、近くから視認する自立型や壁付型等の案内サインなどは4~5m以下、案内サインの見出しなどは10m程度に視距離を設定することが一般的である。
- 下表は、前記の想定のもとに各々の視距離から判読できるために通常有効な文字の大きさを示している。
- 遠距離視認用の大きな文字を壁付型などで視点の高さに掲出すれば、弱視者にとっては接近視できるので読みやすい。

視距離	和文字高	英文字高
30mの場合	120mm 以上	90mm 以上
20mの場合	80mm 以上	60mm 以上
10mの場合	40mm 以上	30mm 以上
4~5mの場合	20mm 以上	15mm 以上
1~2mの場合	9mm 以上	7mm 以上

案内表示

(図色と地色の明度対比例)

サインの図色と地色に、下図に示す程度の明度対比を確保すると、容易に識別しやすい。



案内表示

「色覚障害の色の見え方と区別の困難な色の組み合わせ」の一例
(大多数を占める赤緑色覚障害(1型色覚、2型色覚)の場合の例)

背景の色と文字やサインの色について

■ 黒の背景の場合

- 黒背景の上に重要な情報が赤字で表示されていてもその部分は黒く見えてしまい識別できない場合があるので、オレンジに近い赤や、黄色やオレンジを用いると視認しやすくなる。赤を用いる場合には、他の色との境目に細い白線を入れると視認しやすくなる。
- LED表示は黒背景となるので、赤よりもオレンジ等を用いると視認しやすくなる。
- 白内障の人は青が暗く見える場合があるため、黒背景の上には青よりも水色を用いると視認しやすくなる。

■ 色付きの背景の場合

- 濃い色の背景の上に別の色で文字やサインを表示すると、色覚障害の人には視認しづらい場合が多いので色付きの背景では、文字やサインはなるべく白(濃い色の場合)か黒(淡色の場合)で表示すると視認しやすくなる。
- 路線マークなど、決められた色のサインを表示する場合には、周囲に白で縁取りをつけると視認しやすくなる。

■ グレーの背景の場合

- 水色、ピンク、淡い緑などの文字はグレーの背景と混同しやすく、文字やサインが識別できなくなる場合があるので、黒か白、もしくは明度差がはっきりした濃い色の文字やサインを用いて表示すると視認しやすくなる。

■ 白の背景の場合

- 白内障の人は黄色が白と区別できない場合があり、1型色覚の人は水色や明るい青色が白と区別できない場合があるので、周囲に黒で縁取りをつけると視認しやすくなる。

■ 同系色の濃淡

- 色覚障害の人は明度や彩度の差には敏感なので、同系色の濃淡で文字やサインを表示しても視認できる。

文字やサインの表示要素ごとの見分けにくい色の組み合わせについて

■ 赤と黒

- 黒と対比させる場合はなるべくオレンジか、オレンジに近い赤を用いると視認しやすくなる。
- 注意書きの文章や案内地図の現在位置表示等を赤で表示する場合は、下線を引く又は反転文字により示すといったように、色だけでなく形状でも変化をつけると視認しやすくなる。
- 禁煙、立入禁止等の警告サインは、赤と黒が接するところに細い白縁を入れると視認しやすくなる。

案内表示

■赤と緑

- この組み合わせは識別できない場合があるので、赤と青、もしくは赤と水色を用いると視認しやすくなる。やむを得ず緑を使う場合は、緑ではなく青緑を用いると視認しやすくなる(緊急避難の経路図、トイレの空き・使用中の表示、扉の開・閉、エスカレーター等の進入可・不可、タクシーの空車・乗車など)。
- 色だけでなく、「空き・使用中」などの文字表示や、「○」「×」「↑」などの記号を用いると視認しやすくなる。
- 表示ランプ等で赤と緑のランプが切り替わるものは識別できない場合があるので、色を変えるのではなく「点灯・消灯」や「点灯・点滅」の方が識別しやすくなる(携帯電話やデジタルカメラの充電状況の表示灯は「赤・緑」から「点灯・消灯」に変更された)。

■ピンクと水色

- この組み合わせは識別できない場合があるので、赤と青を用いると視認しやすくなる。水色を用いる場合は、ピンクを赤紫(マゼンタ)に近い色にすると視認しやすくなる(トイレの男女を示すサインなど)。

■黄色と明るい黄緑、オレンジと黄緑

- この組み合わせは識別できない場合があるので、黄緑のかわりに青みの強い緑や、彩度の低いパステルカラーを用いると視認しやすくなる(案内図の塗り分けなど)。

■青と紫

- この組合せは識別できない場合があるので、やむを得ず青を用いる場合には、赤みの強い赤紫(マゼンタ)を用いると視認しやすくなる。

■茶色と赤、茶色と緑

- この組合せは識別できない場合があるので、赤や緑の明度を大きく変えると視認しやすくなる(明るい緑と焦げ茶色、濃い緑と淡く明るい茶色など)。

■蛍光色

- 蛍光色どうしを組み合わせると識別できない場合があるので、蛍光色とくすんだ色を組み合わせると視認しやすくなる。

■電光表示の色

- 光る色の識別は特に難しく、赤・橙・黄・黄緑・緑が全て同じ色に見える場合がある。色の違いによって識別することが必要な場合は、これらのうちなるべく1色を用い、その他色覚障害者にも識別しやすい青緑・青・白等を組み合わせると視認しやすくなる。

■路線や列車種別、店舗の種類や施設のゾーン等を色で区別している場合

- 見分けやすい色の組み合わせを選ぶことが望ましいが、従前より情報として用いてきた色を変更することが難しい場合には、以下の配慮を行うことにより、視認しやすくなる。
- 1同じ色名で表現できる色の中で、色相、明度、彩度を微調整すると視認しやすくなる(色の微調整によって一般の人への印象をあまり変えずに色覚障害の人への視認性を大きく向上させることができる)。
- 2色のみにも頼るのではなく、文字を併記する、○△×といった形状を変える、ハッチングや紋様を施す、斜体・下線・枠囲み・明暗反転表記を併用することなど形状による識別を追加すると視認しやすくなる。

案内表示

その他デザインについて

■ 色名の表記

- ・ 凡例等には、それぞれの色名を明記するとコミュニケーションがとりやすくなる。

■ 色面の境界

- ・ 色と色の境界には白または黒の細線で縁取りをすると、違う色で塗られていることが視認しやすくなる。

■ 色の面積等

- ・ 面積が広いほど色の違いが分かりやすくなるので、色付きの線は極力太くし、文字は極力太い書体を用いると視認しやすくなる。
- ・ 路線色によって車両等を色分けする場合には、なるべく太い帯状もしくは全体を色分けすると視認しやすくなる。
- ・ 車両等は、他の一般車両と判別しやすい色に明確に塗られていると視認しやすくなる。

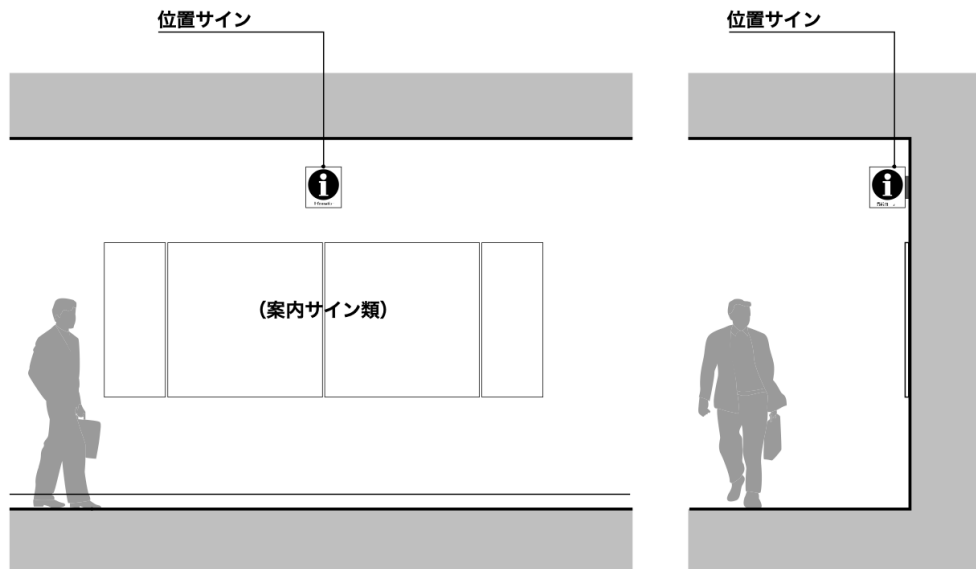
■ 色指定の統一

- ・ 色覚障害の人は微妙な青みの違いや明度・彩度の違いにはむしろ敏感であるために、一般の人には大体同じように感じられる色が、色覚障害の人には全然違う色に見える場合がある。従って、案内図、壁面・床面等のサイン、パンフレット等の印刷物等で、同じものを示す場合にはそれぞれの色を統一すると視認しやすくなる(色を指定する場合は色名ではなく、カラーチップやCMYK値などで数値的に行うと統一できる。)

出典:神奈川県「カラーバリアフリー『色づかいのガイドライン』」平成17年10月及び秀潤社「細胞工学」誌「色覚の多様性と色覚バリアフリーなプレゼンテーション」平成14年9月を基に作成

(情報コーナーの表示例)

案内サイン類を集約的に掲出している場所(情報コーナー)を通路の延長方向から見つけやすいように設置する、情報コーナーの位置サインの表示例を示している。



案内表示

(近くから視認するサインの掲出高さの考え方)

- 対面するものを見る場合、車いす使用者が見やすい範囲は、立っている人よりおよそ 40cm ほど下がっている。
- このことから、近くから見るサインを、立位の利用者と車いす使用者が共通に見やすい範囲に掲出する際の高さは、床面からサイン表示面の中心までの距離を、双方の視点の間である 135cm 程度と考えるのが適当である。
- 注)下図の通常視野は、日本建築学会編「建築設計資料集成 3 集」1980(丸善)による。

